



にししゅう

西小だより

ホームページはこちら→



「強く 正しく 健やかに」

令和3年 6月28日(月)第6号 校長 都外川 潔

西小っ子の心を見つめる教育週間

先週金曜日から、今週木曜日までは、「西小っ子の心を見つめる教育週間」です。各学級では、命の大切さや思いやりの心などについて道徳の学習を行うなどの取組を行っています。私は、全校朝会で、次のようなことを子どもたちに話しました。



さて今日は、私が、子どもの頃に大きな失敗をしたことについて話します。

それは、私が小学校3年生だった、ある秋の日の出来事です。その日、私は友達から、「おもしろいゲームを買ってもらったから、学校帰りに家で遊ぼうよ」と声をかけられました。私は、「学校帰りに友達の家にいくのはいけないよな…。でも、おもしろそうだな」と迷いましたが、「うん、いいよ」と言ってしまいました。

その日の放課後、学校からの帰り道、友達は、「こっちの畑を通ると近いよ」と教えてくれました。私たちは楽しく遊びましたが、ふと気がつく、窓の外が暗くなってきていました。「早く帰らない」と思い、私はあわてて「さようなら、またね」と言うと、家への道を急ぎました。「そうだ、さっきの近道を通ろう」と思い、「確かここだったような…」と畑の中を歩いていたら、突然、今歩いていた地面がなくなり、私はなにが、やわらかい泥のようなものの中に、首まで沈んでいました。足もつきません。私は何が起こったのかもわからず夢中でもがいていると、手の先が地面に届きました。必死の思いで這い上がりましたが、体中が何か臭い泥のようなものだらけです。それでも「家に帰らない」と思い、歩いていると、近くの農家の方が見つけてくださり、庭のホースで私に水をかけて洗ってくださいました。

後で聞いたのですが、私が落ちたのは「肥溜め」と言って、畑の肥料にするために、豚のふんをためていた場所だったのです。その頃は、大村にも普通にあり、子どもが落ちて命を落とすこともあったそうです。ランドセルのふたのすき間からもふんが入り、教科書にもついていました。私は何度もふきましたが、においはとれませんでした…。

私は運よく助かったのですが、私の命は小学校3年生のときに終わっていたかもしれないと思います。そう思うと、今は「命があるだけで幸せ」だと思います。また、いろいろなことに「ありがたい」という気持ちになります。道を歩いていると「地面があるって、ありがたい」、水を飲んでも「水があるってありがたい」、朝着替えるときにも、「この布を作ってくれた人、服にしてくれた人がいるって、ありがたい」と思います。人間は、一人ではなにもできませんが、一人一人ががんばって働くことで、生きていけるのです。

命は、「あって当たり前」のものではありません。あなたの命も、これまで大切にされてきたから、今あるのです。自分の中にある命と、周りの人の中にある命、一つ一つが「ありがたい」命です。命があるから、人の役に立つことができます。命があるから、人に優しくすることができます。

お互いの命を大切にできる西大村小学校でありたいと心から思います。

これで、私の話を終わります。

